



謹啓 寒威おかた 益々お世来 御遊奉
 蒙り 陳先般か 御改之 助忍ハ 此係
 書の趣 謹業同 凡七漸ク 之好も 前書之 趣
 育ニ おんハ 今より 一三四十 餘書之 カニ 滞
 在の 終るハ 甘ん 不及 精々 此書 諸所 此心 以
 り 官々 上層 外ハ 安樂 結成 するハ 及ハ して 誠
 居氣 氣の 毒々 存ハ 積年 未ハ 厄介 付ハ 生
 當り 尚書 生ハ 上層 中の 互ホ あり あり 右ニ 定
 め 了 松尾 儀助 也 昔より 一上 中ニ して 洋
 細 何年 知 あり あり 瘡 有ハ して 効 あり 終ハ して



去す目下旬留字先キと控し病氣も生在
留知人同洋々遠懐愁傷の至る
お良忍ハ平好もあも多後多々思言自去ん
所同忍ハ不お稽山健存もさし勤意お生殊
ニ事又ニハ古今の學校科程卒業業お生
ハ皆うら此所ハ安穩被生さる及共他与
地實況ハ来す目ハ 松尾儀助キ当地志
及元海船の人途ハお就き、積り下ハ同入
より此方えを仰き、及奉存
第ニおとこ思好、四書、五帖、し、読書、此節
幾分生す、目ハ便を以て、奉お送

三
右ハ別ニ奉事届許より、使使あかしく、
うらみは笑納被せらるゝ、奉事心々
尚お当地お懸し、向もうゝ、何時に
も、名は遠慮は奉事、を仰き、反時下
寒冷之時、節折角
御愛書、奉祈上、奉々、教具

ナニナニ

凡此仰下

伯大隈重信殿